

十和田の火山活動解説資料（令和6年11月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

今期間、火山性地震が一時的に増加するなど地震活動がやや活発な状態で経過しました。また GNSS 連続観測では一部の基線でわずかな伸びが引き続き認められています。その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3）

22日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は228回となりました。日回数が100回を超えたのは2023年7月6日以来です。震源は中湖付近^{なかのうみ}の深さ約6km付近と推定されます。また、22日から27日にかけて、マグニチュード2を超える地震が5回発生しました。最大の地震は26日13時37分頃に発生し、マグニチュード^{*}は2.9で、青森県三戸町で最大震度1を観測しました。より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

※ マグニチュードは地震の規模を示します。今期間の値は暫定値で、後日変更することがあります。

・ 地殻変動の状況（図4、図6）

GNSS 連続観測では、2023 年前半から十和田湖を挟む東西の基線において、わずかな基線長の伸びが認められています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

今回の火山活動解説資料（令和6年12月分）は令和7年1月14日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 十和田 中湖周辺の状況（11月26日）
・ 銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

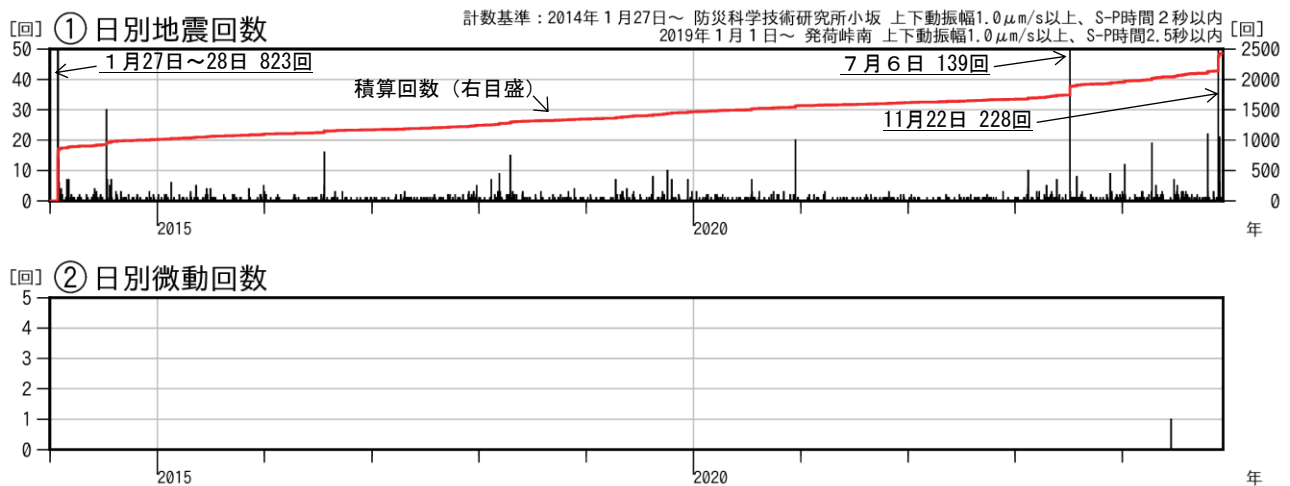


図2 十和田 活動経過図（2014年1月～2024年11月）

22日に火山性地震が一時的に増加し、日回数は228回となりました。低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

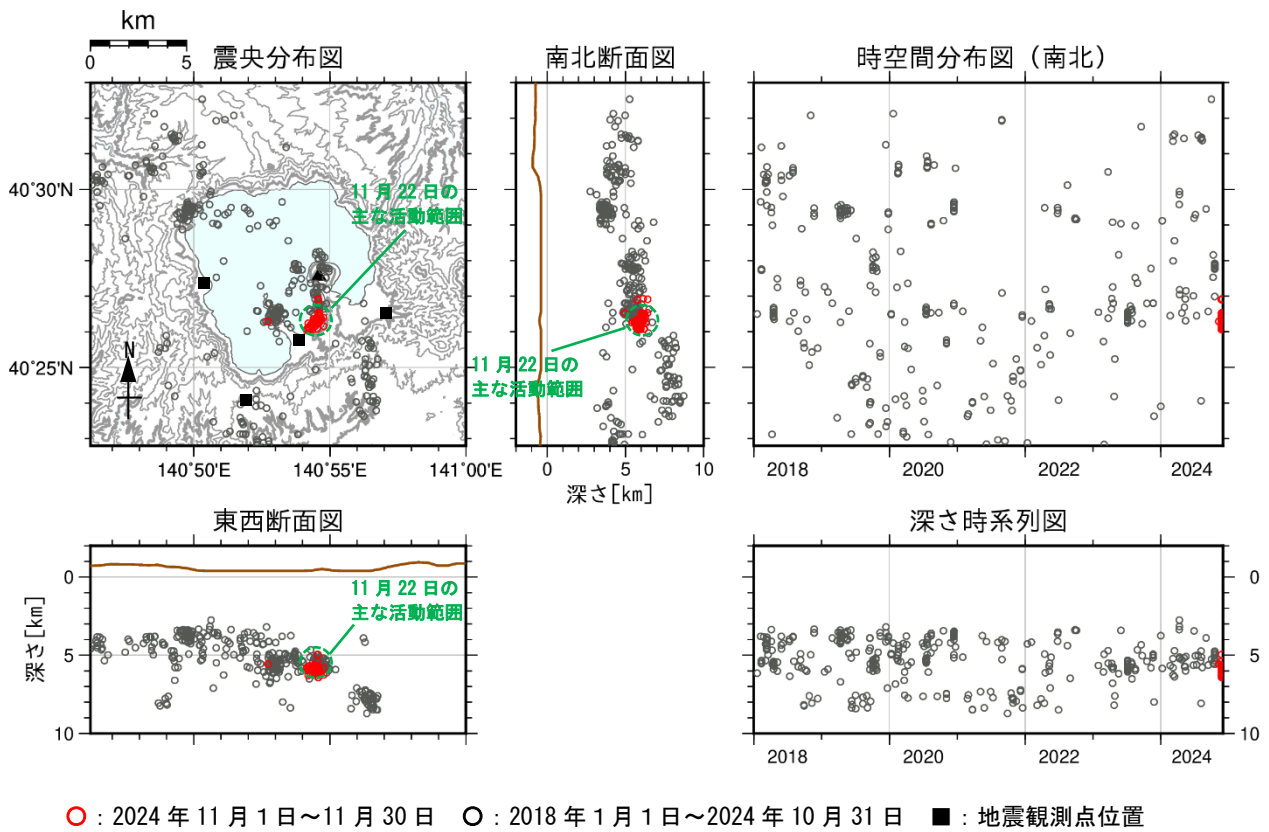


図3 十和田 地震活動（2018 年 1 月～2024 年 11 月）

22 日に発生した火山性地震の震源は中湖付近、深さは約 6 km 付近と推定されます。十和田では、これまでも深さ約 5 km 前後での地震が発生しています。より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

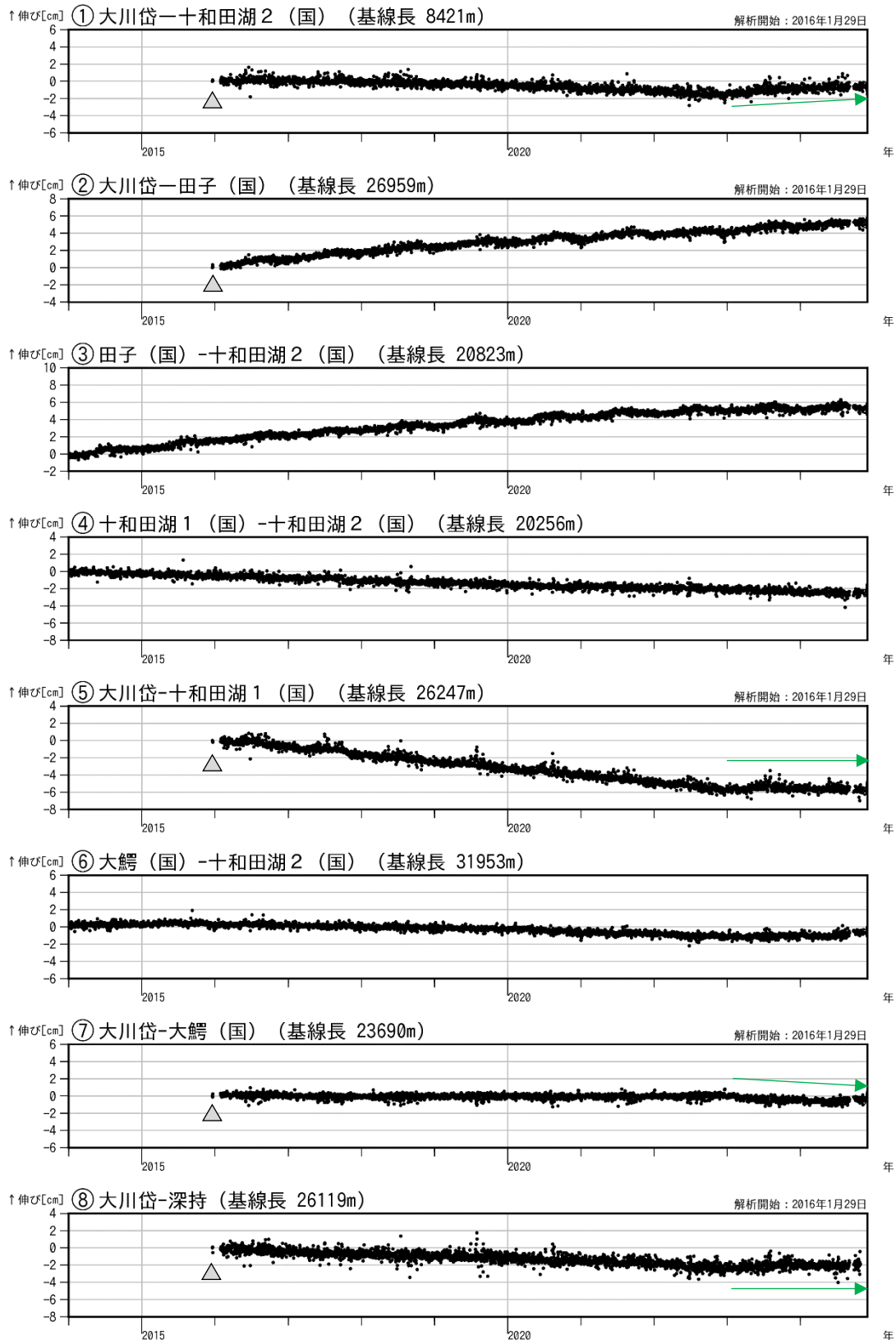


図4 十和田 GNSS 基線長変化図（2014年1月～2024年11月）

- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ・システム更新に伴う調整中のため、一部の過去データにステップ状の変化がみられています。
- ▲：解析開始を示します。

十和田周辺の一部のGNSS基線長（①⑤⑦⑧）では、2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位によるとみられるわずかな変化（緑矢印）が引き続き認められています。またGNSS基線長①の変化には、2023年前半からの十和田湖2観測点の東方向への変位によるとみられるわずかな変化も含まれていると考えられます。

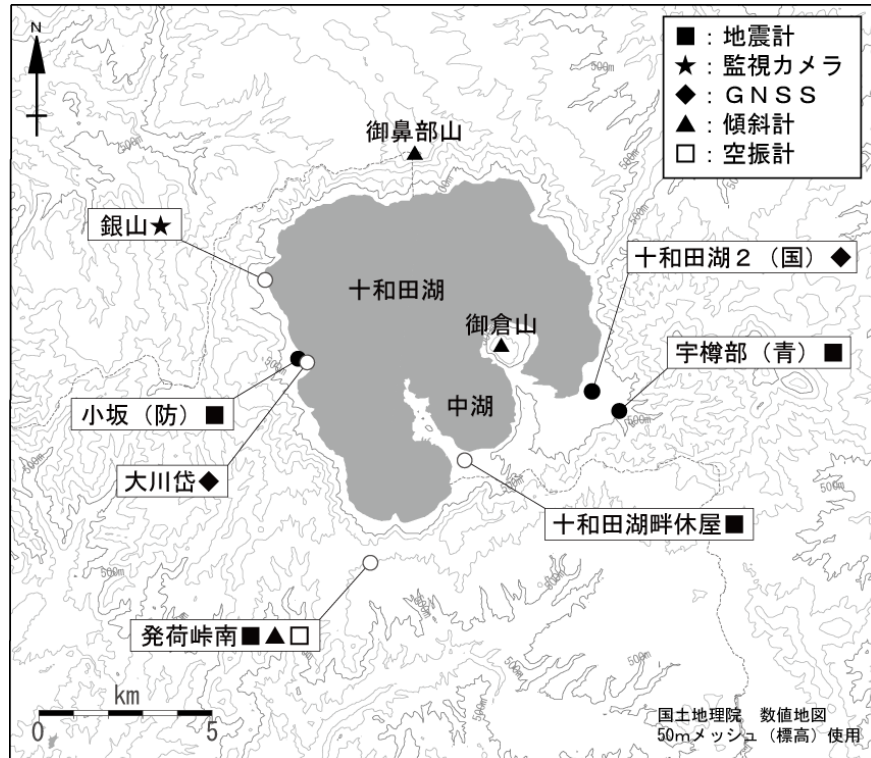


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

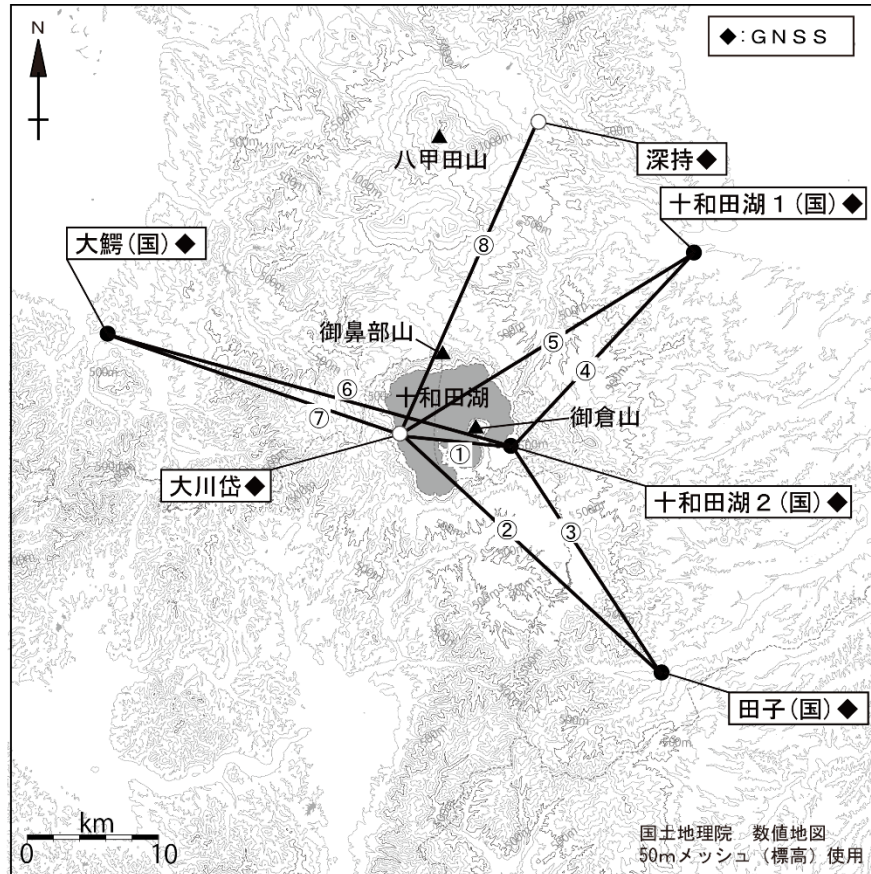


図6 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院